

[報告] 2013年11月14日 高浜町・おおい町への申し入れ

「広域避難先も、避難路も、スクリーニングの場所も具体化していない」

再稼働審査で「炉心溶融を前提にするのは認められない」

11月14日、原子力防災避難計画と再稼働審査の安全性問題について、高浜町、おおい町に対し、それぞれの町役場にて申し入れを行いました。福井県の高浜町、小浜市、若狭町、福井市から8名、京都、大阪から4名、計12名の市民が参加しました。高浜町は、原子力防災課の平田課長、田中課長補佐等3名、おおい町は、企画課の清水課長、横江課長補佐の2名が対応しました。福井・関西の9団体¹で「申し入れ並びに質問書」（以下「申し入れ書」）を提出し、申し入れ書の質問事項に沿って、避難計画、関西電力の汚染水対策、シビアアクシデント対策、地震動の過小評価の問題について、やりとりしました。

避難計画など具体的に何も決まっていないこと、再稼働審査で炉心溶融を前提とした危険な事故シナリオが議論されていることが地元には知らされていないこと等が明らかになりました。再稼働は許してはならないと、改めて感じました。



高浜町への申し入れ

◇9団体による高浜町宛申し入れ書

http://www.jca.apc.org/mihama/ooi/takahama_moushiire20131114.pdf

◇9団体によるおおい町宛申し入れ書

http://www.jca.apc.org/mihama/ooi/ooi_moushiire20131114.pdf

◆「兵庫県内の避難先は全く具体的に決まっていない」（高浜町・おおい町）

まず、両町の避難計画の策定状況について聞きました。高浜町は、「素案を内部で検討中」ということでした。広域避難先については、高浜町は「兵庫県下の市町。新聞では5市町の名前が出ているが決まったわけではない」、おおい町も「兵庫県下の5市町だが、それ以上の詳細は決まっていません」と答えました。避難計画の策定期間は、両町とも年度内ということでした。

要援護者の避難計画については、高浜町は、「県の計画でも『早期に避難』となっており、優先しなければならず、計画の確定が必要だが、何も決まっていません。町内の福祉施設の要援護者が、避難先のどこの福祉避難施設に避難するか等を決めるまでは相当時間がかかりそうなので、今年度策定する避難計画の中には、できるまでの部分しか載せられないと思います」と。

おおい町は、「災害時の要援護台帳の整備はした。個々の身体の状況や介助者の連絡先を記した台帳を基に、区長と協議しながら対応するよう進めています」と。しかし、避難先の福祉避難施設等について聞くと、「要援護者の担当部署は住民福祉課なのでよく分かりません」と答えました。

¹ 原発設置反対小浜市民の会（福井県小浜市）／プルサーマルを心配するふつうの若狭の民の会（福井県若狭町）／原発にたよらない滋賀の会（滋賀県）／原発なしで暮らしたい丹波の会（京都府）／グリーン・アクション（京都府）／七番めの星（京都府）／おおい原発仮処分尼崎原告の会（兵庫県）／脱原発わかやま（和歌山県）／美浜の会（大阪府）

◆「自然災害と原発事故の複合災害への対策については検討していない」（高浜町・おおい町）

先の台風で道路が寸断され孤立した地区があったこと等を受け、自然災害と原発事故との複合災害にどう対応するのか問いました。両町とも、「先の台風の影響・被害を踏まえた、集落ごとの避難路や避難手段の検証は行っていません」と回答。また、「検証のため住民の声を聞く場を設けることは今のところ考えていません」（おおい町）と、積極的に複合災害への対策を行っていこうという姿勢はありませんでした。

◆「音海地区の新たなトンネルについて不満の声は聞いていない」（高浜町）

高浜原発のある内浦半島で、原発より奥にある音海地区に新たな避難道（トンネル）を作る計画については、「完成までには5～7年はかかる」ということでした。

この新たなトンネルについて、私達が7、9月に行った高浜町戸別訪問において、「トンネルの出口は、高浜原発のゲート前であり、意味が無い」という音海地区の住民のたくさんの不満や不安の声を聞いたことを紹介しました。しかし、高浜町は、「計画を作るにあたっては、県の小浜土木事務所が音海地区住民に説明したが、不満の声は聞いていません」としました。説明したのは県であり、高浜町はトンネルについて直接住民から聞き取りをしていないのですが、「音海の住民の理解を得られたと思っている」との考えを改めようとしませんでした。

◆「スクリーニングの場所も、避難ルートも何も決まっていない」（高浜町・おおい町）



おおい町への申し入れ

広域避難については、両町とも、避難に自動車を使うことによる渋滞の問題、スクリーニングをどこで行うのか、その際の駐車場の確保、避難ルート等について何も決まっていませんでした。

兵庫県が行ったシミュレーションでは、兵庫県内各地に高い被ばく予測が出ています。このような地域に避難することの是非を町として検討したことがありますかと聞くと、高浜町は、「避難先は事故時の風向き等、気象条件を参考に決める。一つの候補地としては有効、避難先については県に調整してもらっている」。おおい町は、「防災は総務課が担当部署なので、把握していない」ということでした。

一方、子どもが避難するのだから、ヨウ素剤を服用しなければならないような所に避難することはどうかと聞くと「それは無意味ですね」（高浜町）と答えました。

◆「避難計画と再稼働は別の判断」（高浜町）

以上のような避難計画が全く具体化していない中では、再稼働については承認できないということではよいですかと聞くと、高浜町は「再稼働の問題と防災の問題は切り離す」との考えを示しました。実効性のある避難計画ができるまで、再稼働は待ってほしいという姿勢は全くありませんでした。

◆「汚染水対策はシルトフェンスだけでは難しい」（高浜町・おおい町）

関電の海への汚染水放出抑制対策はシルトフェンスということについては、両町とも「知っています」と答えました。一方、これで抑制できるかということについては、高浜町は「オイル漏れの際は有効だが、水はこんなものはスルーする。海面下20mしかなく、その下を潮が

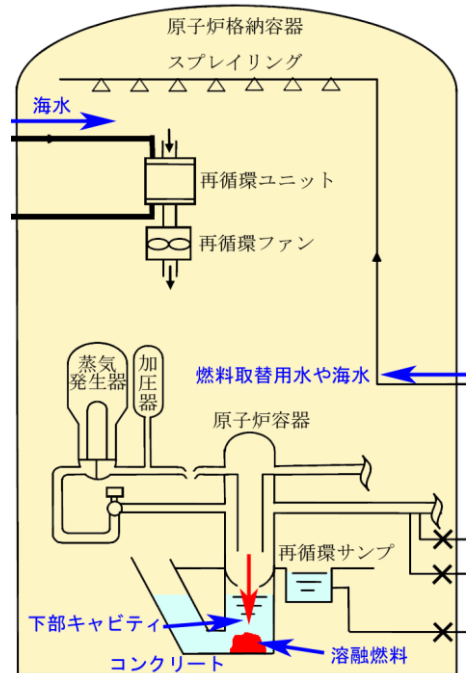
動いた場合はどうにもなりません。シルトフェンスだけでは難しい」、おおい町は「全て食い止められるものではありません」と。福島原発の汚染水事故では役に立っていないのですから、これでは難しいことは事実として認めざるをえないということでしょう。

◆「炉心溶融を前提にするのは認められない」（高浜町）

関電の炉心溶融を前提にした事故シナリオ（炉心溶融が始まったら、原子炉容器に注水せず、メルトスルーさせるシナリオ）については、「水を入れない？」と高浜町課長は驚きを隠せず、「炉心溶融を前提にするのは認められない。関電に確認する」とはっきり答えました。

また、配管破断が起きてから溶融が始まるまで20分程しかなく、これで避難できますかと問うと、「当然、配管破断になってからでは遅いですね」と答えました。

一方、おおい町は、「段階的にいろいろな状況を踏んで、炉心溶融もありうるとしているはず」とし、このシナリオについて町としてどう理解しているかを語りました。そのため、そうではなく、この事故シナリオでは溶けるに任せることになっていると説明してもなかなか信じようとしませんでした。関電の設置許可申請書に「ボットン便所」（原子炉容器の底を突き抜けて、全溶融燃料が格納容器下部に落下）の図が載っていると示しても、なかなか信じたくないという感じでした。しかし、事実関係を確認するよう求めると「事実私共の方でも確認します」と答えました。



関西電力・大飯3・4号機設置変更許可申請書(2013年7月8日) 添付十・第5.3.1.1.4図に加筆

◆「地震動の過小評価の問題について現地規制庁職員に伝える」（高浜町）



高浜町への申し入れ

関電の出している地震動が過小評価である問題について説明しました。関電等が津波評価で使っている地震の規模（地震モーメント）を求める式（武村の式）を使って地震動評価を行えば、地震動は現行評価の4.7倍になり、ほとんど全て機器は破壊されます。このことについて、町としても原子力規制委員会に対して、地震動評価のやり直しを要請するよう求めました。高浜町は、「原子力規制庁の現地職員に、市民がこのようなことを言っていること、ちゃんと検討してほしいということは伝えます」と答えました。

おおい町は、「新基準に適合したからと言って危険がゼロになるとも思わない。専門的なことなので、規制委員会が現在審査中なので見守っていきたい。規制委員会の判断を尊重したい」と答えました。参加者は、素人が考えてもおかしいと思えることは問いただすべき等、立地時自治体として関電や国の評価に疑問を出していくよう求めました。

今回の申し入れ書では、11月21日までに文書回答することも要請しました。特に、おおい町は、防災担当部署の総務課が今回出席できなかったため、企画課が把握していなかった部分について、文書回答するよう改めて求めました。

申し入れを通じて、両町ともに避難計画がほとんど具体化していないことが明らかになりました。また、関電の炉心溶融を前提にしたシビアアクシデント対策については、知らされていないことが明らかになりました。関電等のシビアアクシデント対策がいかに危険であるか、他の自治体等にも広く知らせていきたいと思います。

2013年11月19日

原発設置反対小浜市民の会
プルサーマルを心配するふつうの若狭の民の会
原発なしで暮らしたい丹波の会
グリーン・アクション
美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会（美浜の会）

おおい町からの電話回答（2013.12.9）

・要援護者の避難については、住民よりも早い段階で避難するようにしているが、避難先等の具体化は3月末のマニュアル作成までにまとめたい。現在は具体化はできていない。

・兵庫県への広域避難については、避難の具体化（スクリーニングの場所等々）について現在検討中で、具体化はできていない。兵庫県が作成した被ばく予測のシミュレーションを町として求めるとも求めないとも言えない。

・溶融燃料が格納容器下部に落下する事故シナリオについて、関西電力に問い合わせたら、規制委員会の要求に合わせてそのような事故シナリオを作ったとの回答であった。基準で求められている溶融燃料の落下遅延・防止、原子炉圧力容器への注水等をやるのか、またどのタイミングで誰が判断するのか等は規制委員会で審査の最中ということなので、町としては、規制委員会の要請にしっかり対応すべきだと考える。